

活動速報はホームページに掲載しています <http://www.garan.ne.jp/ochi>

41歳



◀5月10日 看護の日

東海病院と健康づくり推進委員とが共催した「看護の日」イベントに参加しました。

看護師の白衣やスクラブに着替えての記念写真等を通じて、子どもたちに看護活動を身近に感じよう工夫がされていました。また、血管年齢測定に挑戦し、実年齢を若干下回る結果が出ました。

▶5月30日～31日 自立支援介護学会学術大会

都内で開催された学会の学術大会を聴講しました。

「自立支援介護」とは、できないことを助ける介護から自分で出来ることを増やして自主性を促す介護であり、全国の介護現場で広がりつつあります。

学術大会は、介護に携わる人たちが実践事例や課題などを討論する場であり、とても参考になりました。



VOICE ~リレーで綴る村民の声~



井坂 亜紀さん
(須和間在住)

私は、生まれも育ちも東海村の生粋の村っこです。東海村が大好きで離れることができません。主人も同じく村っこで、結婚しても子どもが産まれても東海村に住もうね！と約束しました。現在1歳の娘がいます。子育てサークルや、遊び場などが充実していて子育てしやすい環境に感謝しています。子ども向け施設は、平日だけでなく、日曜日や祝日も遊べると嬉しいです。それから東海村にも産婦人科があるといいと思います。

編集後記

選挙権年齢を20歳以上から18歳以上に引き下げる改正公職選挙法が成立した。施行後初めて公示する国政選挙から適用するため、来夏の参院選から「18歳以上」が投票できる見通しである。

従来は、学校教育で政治や時事問題に深入りするのはタブー視されてきたが、文科省は年内にも選挙制度などを解説する副教材を全高校生に配布する予定だ。

18歳選挙権は国の法律改正ではあるが、地方自治体でも何らかの対応を実施する必要があるのではないかと。最も身近な、東海村議会の傍聴席に大勢の高校生の姿があれば、執行部も議会にも良い刺激になるであろう。

(す)

わかば通信

東海村議会議員 **越智たつや** 議会報告



第30号

平成27年7月発行

発行人：越智たつや後援会

日立市幸町2-13-6
(日立製作所労働組合 日立支部内)
TEL 0294(26)0183
FAX 0294(26)0186

日頃のご支援に感謝申し上げます。

さて、本年3月31日をもって、東海村が発足してちょうど60年の節目を迎えました。

今後、さまざまな60周年記念事業が実施されますが、これらのイベントを通してこれまでの歩みを振り返ると共に、今後の東海村の将来像について、皆さまのご意見を伺う機会にしたいと思います。

越智辰哉



NEWS ~ 東海村行政の身近なニュースをお伝えします ~

ウォーキングによる健康づくりを推進

村では、住民の運動の習慣化促進に向け、ウォーキングを推奨し、「すこやかウォーキング」を定期的で開催しています。

「すこやかウォーキング」は、歩くことの習慣化と仲間づくりの場を目的として平成18年にスタートしましたが、これまでは主に高齢者が中心の事業となっていました。しかしながら、昨今の若年層における運動習慣の低下や生活習慣病予防の観点から、若い世代に対してウォーキングを含めた健康づくりの浸透を図る必要があります。

そこで、今年度は夏休み期間に、子どもから大人まで幅広い世代の参加を促す「とうかい☆朝ウォーク2015」の開催や、絆周辺の既存のヘルスロードへの看板設置、あるいは村内6か所のコミュニティセンターを基点とした新たなヘルスロードの指定などを実施する予定です。

今後も、世代を越えた健康増進施策を充実させ、住民の主体的な健康づくりへとつながることを期待します。



とうかい☆朝ウォーク2015
7月29日(水)
AM6:00 ~
「絆」周回コース
(全長 5km)
※エンジョイサマースクール対象事業



リコッティの買収など 補正予算を可決

平成27年6月定例会を6月2日から22日までの会期で開きました。

今議会では、原子力研究開発機構が所有していた「リコッティ」の買収にかかる補正予算等15件の議案が提案されましたが、慎重審議の結果、すべて原案のとおり可決しました。



▲村役場が取得することとなった「リコッティ」

Point!



「リコッティ」は何に使うの？

フロア	現状	活用方針
1階	ラウンジ、ロビー	観光協会の事務所機能 軽食等の事業者を誘致
	多目的ホール	一般への貸出
2階	事務室	ベンチャーなど創業支援 の拠点として貸出
	防音室	スタジオとして一般貸出
3階	会議室	一般への貸出

「テクノ交流館リコッティ」は、平成15年に建設された原子力研究開発機構の施設であり、研究成果の普及や情報公開、およびリスクコミュニケーションの活動拠点として、多くの関係者や一般村民の方が利用する施設でした。

しかしながら、事業者が進める構造改革の一環として売却する方針が示されたことを受け、駅前という立地条件や施設建設の目的を踏まえ、公共性の高い施設と判断し、村役場が買収して活用することとしました。

お買い物は地元商店で！ ～プレミアム地域商品券の発行～



7月11日、12日に販売される「東海村プレミアム付き地域商品券」は、国の緊急経済対策の交付金を活用した事業です。

今回発行された商品券は、本年10月12日までが使用期限となっていることから、村内の継続した経済活性化のためにも、現在の郊外型の大型店舗での消費行動から地元商店での消費行動へと意識転換するきっかけとなることを期待します。

中央公民館の機能を移転

昭和31年に建築された中央公民館は、老朽化が進んでいることや、建屋の耐震不足が判明したことを受け、プレハブ建屋の建設と文化センターのピロティ改修工事により、新たな中央公民館として整備することとしました。

整備された新しい中央公民館は10月を目途に機能を移転する予定であり、本定例会において、会議室等の使用料を定める条例改正を行いました。



越智議員の 一般質問

一般質問とは・・・

住民を代表し、村政全般について村長など執行機関の考えや方針を問い質すものです。

高齢者実態調査から見えてきた課題は？

高齢者の生活支援等が課題であり、「生活支援コーディネーター」を小学校区ごとに配置したい。

Q. 第6期高齢者福祉・介護保健事業計画の策定に際し、高齢者実態調査を実施したが、この調査から見えてきた課題、および今後取り組むべき施策は何か？

A. 高齢者実態調査により、課題として①介護予防②認知症施策③生活支援④生きがいづくり、それぞれに取り組みが必要であることが見えてきた。

特に、高齢者の生活支援については、「生活支援コーディネーター」や協議体を設置し、地域の生活支援ニーズと資源の把握、関係者のネットワーク化、生活支援の担い手の養成やサービスの開発などを行う必要がある。コーディネーターについては、小学校区ごとに配置したいと考えている。

Q. 国勢調査の結果を見ると、本村の高齢者のみの世帯割合が35%であり、県平均26%を大きく上回っている。

ひたちなか市で、6月から3世代の同居・近居を支援する制度がスタートしたが、本村において日本古来の3世代が同じ敷地内に暮らす雰囲気醸成する施策の必要性について、どう認識しているか？

A. 3世代同居は非常に良い視点で、私(村長)も取り組みたいと思っていたところである。東海村は、人口の増え方の割には世帯数が異様に増えており、核家族化が進んでいると思っている。これを無理矢理もとに戻すのではなく、緩やかに家族で近くに住んで支え合うことを誘導するものも必要だと認識している。

個人のライフスタイルを尊重しながらも、3世代同居をフォローできる行政サービスがあれば展開していきたいと考えている。



「子育てしやすいまち」の実態をPRすべき

地方版総合戦略の策定のなかで、具体的な方策を検討していく。

Q. 東海村の子育て支援策は近隣自治体と比較しても充実していると評価するが、施策を充実することと合わせて出生率が県内でも上位であり「子育てしやすいまち」であるという東海村の現状・実態を、村外へ積極的に情報発信すべきではないか？

近隣では、常陸太田市が子育て支援に取り組む内容を積極的に情報発信している。たとえば、インターネットテレビ「いばキラTV」で東海村が特集された動画の子育て支援版を作成すれば、子育てしやすい東海村のイメージアップにつながるのではないかと。



▲「いばキラTV」の動画サイト

A. 子育て支援策については、経済的な支援や施設も含めて東海村は充実していると感じている。今後は、子育て支援策に磨きをかけることも重要であるが、いかに村外へ情報発信し、「子育てするなら東海村」というイメージを定着させたいと考えている。その方策については、現在検討を進めている地方版総合戦略に盛り込み、プロモーションビデオや他市町村の手法も参考にしながら検討していく。